



福島第一原発事故の被害を「見える化」する。



国際環境NGO「FoE Japan」事務局長
満田 夏花(みつた かな)さん

2009年よりFoE Japanにて開発金融や環境問題に取り組む。FoE Japanは地球規模での環境問題に取り組む国際環境NGO。世界73カ国にサポーターを有する Friends of the Earth International のメンバー団体として日本で活動している。

「あまり報道されることのない現状を知ってほしい」。こうした思いから、国際環境NGO「FoE Japan」では、福島第一原発事故から10年目を機に、事故の影響を伝える「ふくしまミエルカプロジェクト」を立ち上げました。パルシステム組合員から寄せられた2020年度「東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金」の一部も、このプロジェクトに生かされています。

見えなくされている事故の実態

国際環境NGO「FoE Japan」は2020年、福島第一原発事故から10年目に合わせて、事故の被害を「見える化」して国内外に向けて情報発信する「ふくしまミエルカプロジェクト」をスタートさせました。

このプロジェクトでは、原発事故の影響を受けた人たちのインタビュー映像を「15の証言」として公開。7言語に翻訳して海外に向けても発信しています。また、避難指示区域の変遷や震災関連死の推移、土壌汚染や汚染水の問題などのデータを分かりやすくまとめて右で紹介している特設サイトに掲載しています。

「国や行政は、避難者の正確な人数や状況を把握しようとせず、土壌汚染も測定していません。その一方で避難区域の解除が進められています。原発事故被害は時間とともに風化しているだけではなく、意図的に『見えない化』されているのだと感じます」

被害者支援に取り組んできた事務局長の満田夏花さんは、こう話します。

原発を気候変動対策に使うことへの反論

原発事故によって家や仕事を失い、今も苦しみを抱える人たちが大勢います。しかし、最近では、政府が2050年までに「温室効果ガス実質ゼロ」を掲げたことから、CO2排出量の少ない原発が必要だという声も推進派から上がってきています。それに対して満田さんは、「処理できない核のゴミや甚大な事故の被害を考えたら、原発を気候変動対策に使ってはいけないうのは自明のこと」と反論します。

被ばくリスクについても次第に語られなくなっているなか、事故のことをよく知らない若い世代への情報発信の必要性も高まっています。

「FoE Japanはパルシステムをはじめとする支援や寄付により活動を続けてきていますが、10年たって人手や資金面で継続がむずかしくなっている支援団体も出ています。しかし、私たちが求めてきた被害者救済の法整備はまだ実現していません。『見えない化』に流されず、今後も実態を伝え続けたいと考えています」

FoE Japanの「ふくしまミエルカプロジェクト」

被害を受けた人たちのインタビュー映像や原発事故に関するデータを特設サイトで公開しているほか、オンラインセミナーなども開催しています。

特設サイトはこちらから
⇒
ご覧ください



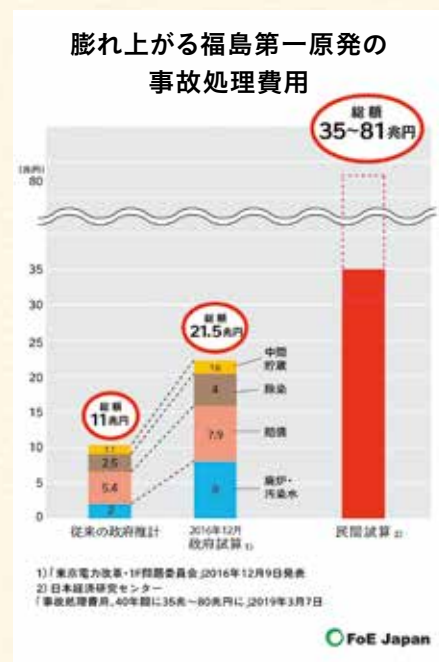
●当事者の声を伝える映像

避難した方、帰還した方、生業を奪われた方など、原発事故の被害を受けた人の立場も影響もさまざまです。それぞれの当事者の思いを聞いてほしいと、短くまとめたインタビュー映像15本を公開しています。



●原発事故とエネルギーをめぐる16のデータ

原発事故の被害はどのようなものだったのか、日本の電気やエネルギー事情はどのように変わったか、図表やグラフを使って示しています。取り上げているのは、「震災関連死/自殺者数の推移」「避難者数の推移」「膨れ上がる福島第一原発の事故処理費用」(右図)など16のデータ。「処理汚染水に関する漁業者の意見は?」のテーマでは、福島第一原発でたまる処理汚染水の海洋放出に対するアンケート結果を紹介しています。



冊子『福島の今とエネルギーの未来2021』を発行

福島からの声、避難と帰還、甲状腺がん、ALPS処理汚染水などをまとめています。

※PDF版はFoE Japanのサイトで公開。

(写真・図表提供/FoE Japan)

放射能検査状況について

2020年度の検査数(カッコ内は検出件数)/2021年3月10日現在
※最新の検査状況は下記左側の二次元コードよりご覧いただけます。

総計:2040(28) 不検出率:98.6%

2019年度の検査数 総計3025(30) 不検出率99.0%

青果	409(3)	れんこん(3.5~7.8Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	34(23)	生しいたけ(5.0~15Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ(5.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	36(0)	2019年度に続き、3月10日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	30(1)	2020年産米の検査は27産地29検体の玄米で検査し、栃木こしひかり(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。白米で再検査したところ不検出でした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出された栃木こしひかりは白米でのお届けとなります。

牛乳、肉、卵	81(0)	産地ごとに定期的に検査しています。2019年度に続き、3月10日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	98(0)	2019年度に続き、3月10日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	57(0)	2019年度に続き、3月10日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	230(0)	2019年度に続き、3月10日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	1065(1)	ほしいも(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



●週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。

●インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき

パルシステム
問合せセンター

0120-868-014

月~金曜日:9時~20時
土曜日:9時~17時

※通話料は無料です。 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲斐センター ■0120-28-5891
西桂センター ■0120-32-1061
一宮センター ■0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ■0120-60-5118
渋川センター ■0120-36-3315
東毛センター ■0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。